

## 第6回リカジョ育成賞 -奨励賞-

テーマ	TYL スクール：理系女子キャンプ 2022
受賞者名	大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構

活動紹介	<p>本企画は日本の女性研究者のさきがけの1人である湯浅年子氏にちなんだ日本とフランスのバーチャルラボ(Yuasa Toshiko Lab.)の活動の一環として、2012年より毎年実施しており、理系に興味を持つ女子が同じ興味を持つ仲間を見つけ、理系大学の学部での勉強、大学院での研究に具体的なイメージが持てるようなプログラムになるよう工夫し、また、女性研究者が多く活躍する海外から講師を招き、世界にも目を向けるきっかけを提供することを目的にしている。毎回、高エネルギー加速器研究機構(KEK)に全国の女子高校生30名を受入れ、共同での科学実験、参加者相互の交流、大学院生との交流会、レクチャー、実験施設見学等を毎年行ってきたが、2020年からは新型コロナウイルス禍により現地開催が難しくなり、2020年は完全オンライン開催、2021年はお茶の水女子大学、奈良女子大学の二大学をサテライト会場としKEK及び東北大学はオンラインで開催した。</p> <p>2022年はお茶の水女子大学と奈良女子大学の共催を受け、現地開催に戻り、茨城県つくば市のKEKに全国から30名の女子高校生の参加を得て開催することができた。</p> <p>特に目玉プログラムである科学実験を見直し、3人一組で中型霧箱を作成し放射線の軌跡観察をするとともに、大型霧箱におけるラドン・ポロニウム連続アルファ崩壊イベントを各チームが録画してポロニウムの崩壊時間(寿命)を測定して既定値に合うことを確認する実験を実施した。少人数チームによる作業と測定、各チームの測定を合わせることによる自然現象の放射線測定と解析の達成感があり、生徒が楽しんで取り組んでいる様子を感じられた。また、2研究者による講義、女子大学院生3名とのパネルディスカッションなど、対面での実施でしか味わえない雰囲気を感じてくれたと思う。大型加速器などの実験施設・実験装置を生で見学することができ興奮している様子が見て取れたので、現地開催の意義を再確認した。KEKは物理学の研究機関であるが、対象が高校生であることから、あえて講演内容は物理に限らず、化学、宇宙などの講演、異なる世代、分野の大学院生との交流を設定するなど、分野横断的な企画としている。</p>
PRメッセージ	<p>参加者はもともと理系に対する興味が高いからこそ参加している面はあるが、当日のアンケート結果から、良い刺激を受けた、将来の進路決定に非常に参考になった、などの感想が多数である。</p> <p>2022年度は、感染対策を施したうえで現地(KEK)に集まり4/3~4/4に開催した。</p> <p>2023年度も現地開催として実施できた。今後もさらに工夫を加え継続して実施して行きたい。</p>

